プログラミング言語 Wasabi の 設計と実装

hotaka B1 環境情報学部

Index

→ もっと Wasabi言語自体をフォーカスした方が良い(ハマリポイントや設計、コンパイル時間、JavaScript との比較) → 今のWasabi言語でできる範囲内でベンチマークを取るのもあり

- 目的
- 背景
- WebAssembly について
- Rust で出力した WebAssembly と JavaScript のベンチマーク
- Wasabi 言語について
- Wasabi 言語のベンチマークと考察
- まとめ

目的

■ 「WebAssembly を素早くアプリに組み込める」をコンセプトにプログラミング言語「Wasabi」の設計と実装を行う。

背景

WebAssembly は主に Rust や C++ といった低水準のプログラミング言語からコンパイルしてアプリに組み込む。

これらの言語は付属のツールチェーンを用いてプロジェクトを作成しコンパイラのターゲットに WebAssembly を指定してからコンパイルを行う必要がある。

これらは規模が小さいアプリケーションや WebAssembly を部分的に利用したいアプリケーションの開発にとっては手順が多く学習コストも高い。

→ それらを解決するような言語を開発することでゲーム開発やクリエイティブコーディングなどにおける大量のオブジェクトの処理などを簡単に書けるようにしたい。

WebAssembly について

- Webブラウザで高速にプログラムを実行できるス タックマシンベースの仮想命令セット
- バイナリ形式でプログラムを実行する
- 中間表現としてS式を利用できる
- Webブラウザ以外の環境(OS上)でも動作するよう になってきている
- 低水準のホスト言語(Rust や C++)からコンパイル して利用する
- DOM操作やブラウザのAPIを操作する際は JavaScript で定義した関数を呼び出して行う

```
;; スタックマシンで処理される
i32.const 1
i32.const 2
i32.add
;; 3
```

Wasabi 言語

- 開発言語: Rust
- 論理LOC: 2494行
- 実装済みの機能
 - WebAssembly Text Format へのコンパイル(S式)
 - 関数定義, JavaScript関数のインポート, 変数定義
 - if, while
 - 四則演算,基本的な論理演算(and, or, not)
 - 型: i32, i64, f32, f64, bool

実行までの流れ: Wasabi のコード

`1 + 2` の結果を JavaScript の `print` 関数に渡すコード。

```
// JavaScript の関数をインポート
import js {
  fn alert(i32);
}

// `export` で関数を JavaScript 側に公開
export fn main() {
  alert(1 + 2);
}
```

実行までの流れ: Wasabi のコード

`1 + 2` の結果を JavaScript の `print` 関数に渡すコード。

```
// JavaScript の関数をインポート
import js {
    fn alert(i32);
}

// `export` で関数を JavaScript 側に公開
export fn main() {
    alert(1 + 2);
}
```

実行までの流れ: Wasabi のコード

`1 + 2` の結果を JavaScript の `print` 関数に渡すコード。

```
// JavaScript の関数をインポート
import js {
  fn alert(i32);
}

// `export` で関数を JavaScript 側に公開
export fn main() {
  alert(1 + 2);
}
```

```
$ ./wasa main.was > main.wat
```

```
$ cat main.wat
```

```
(module
 (import
   "print"
   (func
     $alert
      (param i32)
 (func
   $main
   (export "main")
   (call
     $alert
      (i32.add
        (i32.const 1)
        (i32.const 2)
```

実行までの流れ: WAT からバイナリへの変換

WebAssembly が公式に提供しているツールチェインの `wabt` に付属している `wat2wasm` を使用する。

\$ wat2wasm main.wat -0 main.wasm

\$ file main.wasm

main.wasm: WebAssembly (wasm) binary module version 0×1 (MVP)

実行までの流れ: JavaScript コードの準備

```
const imports = {
    js: {
        alert(value) {
            alert(value)
        }
    }
}
const { instance } = await WebAssembly.instantiateStreaming(fetch('/main.wasm'), imports)
instance.exports.main()
```